函館市防災のしおり

2017年

HAKODATE 函館市

過去の主な災害履歴

発生年月日	種　別	被　害　内　容	備　考
昭和 23 年 1 月 6 日	暴　風	死者 16 人、家屋倒壊 335 棟、船舶被害 11 隻	
昭和 29 年 9 月 26 日	台風 15 号	青函連絡船 洞爺丸ほか 4 隻沈没 家屋損壊 5,987 棟、死傷者 1,600 人 漁船被害 1,865 隻ほか	災害救助法適用
昭和 33 年 8 月 19 日	大　雨	死者 3 人、浸水家屋 3,300 棟 家屋倒壊 24 棟、田畑冠水 495 町	
昭和 35 年 5 月 24 日	チリ地震津波	浸水被害 1,473 棟 非住家被害 559 箇所	
昭和 40 年 9 月 4 日	豪　雨	死者 1 人、負傷者 5 人、流失・半壊家屋 2 棟 浸水家屋 4,251 棟、農地農作物被害 42.1ha ほか	災害救助法適用
昭和 43 年 5 月 16 日	十勝沖地震	マグニチュード 7.9　震度 5（強震） 負傷者 7 人、函館大学の倒壊 住家損壊 897 棟、水道施設 1,100 箇所ほか	
昭和 43 年 8 月 21 日	豪　雨 （旧恵山）	死者 2 人、負傷者 2 人、住家半壊 2 棟 浸水家屋 58 棟	
昭和 47 年 8 月 3 日	豪　雨	死者 1 人、負傷者 7 人、家屋倒壊 46 棟 浸水家屋 1,821 棟、農林施設 57 箇所 水産施設 271 箇所ほか	災害救助法適用
昭和 48 年 9 月 24 日	豪　雨 （旧南茅部）	死者 8 人、重軽傷者 3 人、家屋全壊 16 棟 家屋半壊 8 棟、床上浸水 65 棟、床下浸水 168 棟 非住家全・半壊 40 棟、河川決壊 35 箇所 道路被害 13 箇所、橋梁 1 箇所流出 崖崩れ 62 箇所ほか	災害救助法適用
昭和 48 年 9 月 24 日	豪　雨 （旧戸井）	死者 2 人、軽傷者 2 人、家屋全壊 21 棟 家屋半壊 16 棟、一部損壊 17 棟、床下浸水 78 棟 非住家全・半壊 77 棟、河川被害 8 箇所 道路被害 26 箇所、橋梁被害 1 箇所 水道被害 7 箇所、崖崩れ 123 箇所ほか	災害救助法適用
昭和 54 年 10 月 19 日 ～ 20 日	台　風 （旧南茅部）	死者 3 人、負傷者 3 人、浸水家屋 10 棟	
平成 2 年 11 月 4 日 ～ 5 日	大雨・高波 （旧南茅部）	死者 2 人、負傷者 3 人、住宅全壊 5 棟 浸水家屋 11 棟、漁船流出 31 隻	
平成 5 年 7 月 12 日	北海道南西沖 地震	マグニチュード 7.8　震度 4（中震） 負傷者 1 人、住家一部倒壊 50 棟 港湾被害 36 件、商業被害 118 件ほか	
平成 23 年 3 月 11 日	東北地方 太平洋沖地震 （津波被害）	マグニチュード 9.0　震度 4（中震） 死者 1 人、負傷者 1 人、住家床上浸水 94 棟 住家床下浸水 67 棟、住家一部損壊 4 棟 非住家床上浸水 481 棟、非住家床下浸水 24 棟 非住家半壊 1 棟、非住家一部損壊 3 棟 水産被害 456 件、土木被害 25 件ほか	東日本大震災

過去の災害写真

昭和 29 年 9 月（台風 15 号）

昭和 35 年 5 月（チリ地震津波）

昭和 43 年 5 月（十勝沖地震）

昭和 47 年 8 月（豪雨災害）

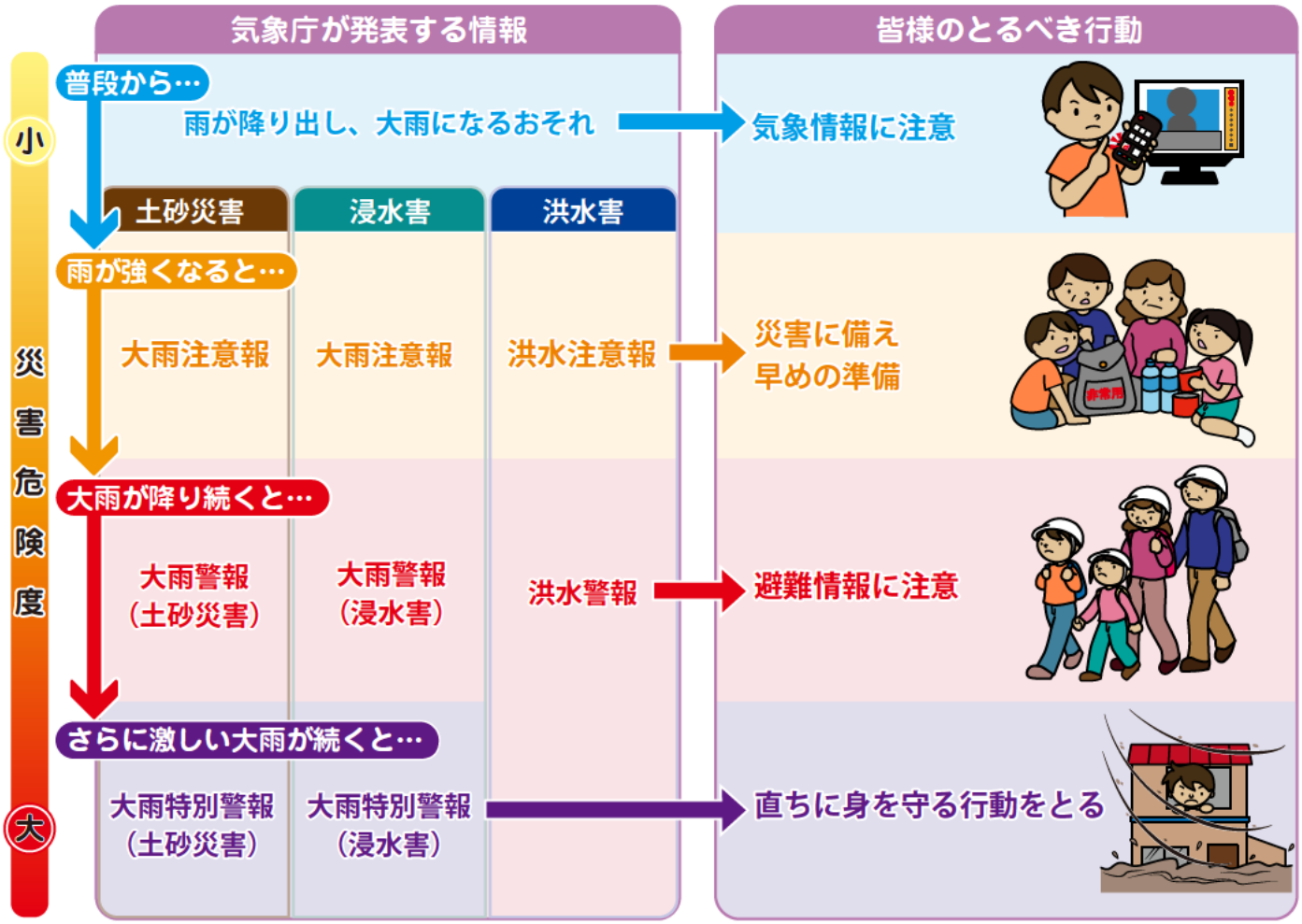
平成 2 年 11 月（大雨・高波災害）

平成 23 年 3 月（東日本大震災）

平成 23 年 3 月（東日本大震災）

大雨・暴風等による浸水害や土砂災害が発生するおそれのあるときに、その時の状況にあわせ、**特別警報**、**警報**、**注意報**などが発表されます。気象庁から警報などが発表されてからのとるべき行動について、家族、地域、学校、職場などで話し合っておきましょう。

■ 大雨に関する気象情報



特別警報が発表された場合は、避難情報が発令される可能性が高まることに注意し、避難の準備をしてください。

■ 土砂災害警戒情報

降雨による土砂災害の危険が高まったときに、**土砂災害警戒情報** が発表されます。

この情報が発表されたら、市の発表する避難に関する情報に注意し、いつでも避難できるように心がけましょう。

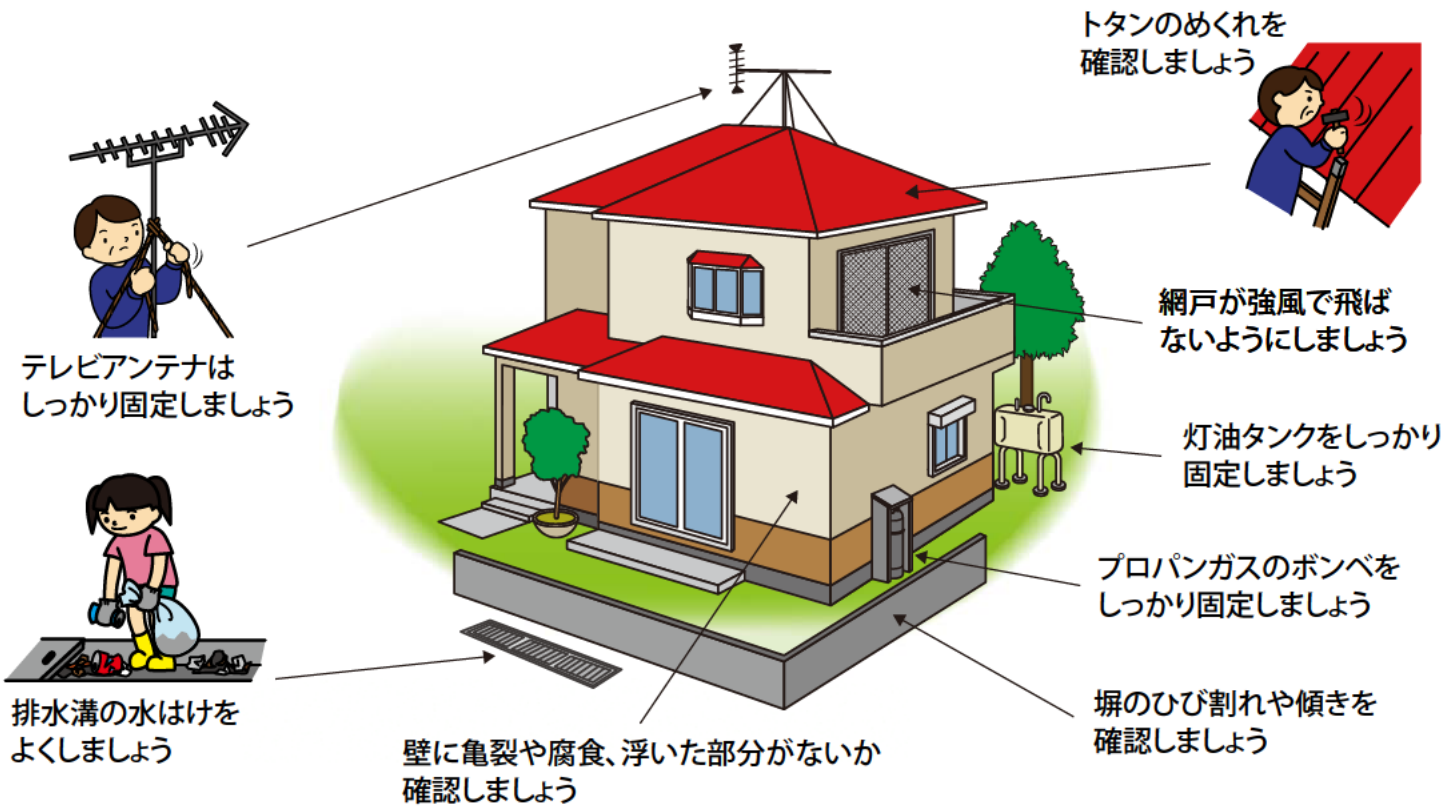
がけ崩れ

土石流

風水害に備えよう

家の点検・整備をしましょう

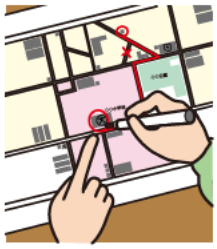
屋根に上っての点検・整備は安全に十分な配慮をしましょう。
風雨の中や、夜間においては作業をしないようにしましょう。



半地下、地下車庫は道路からの雨水により浸水する恐れがありますので、事前に止水板や土のうなどで浸水防止を図りましょう。

避難場所や避難経路の確認をしましょう

ハザードマップに示された
あなたの近くの避難場所や
安全な避難経路を確認して
おきましょう。



非常持出品を点検しましょう

避難時にすぐ持ち出せる
ように、非常持出品を
点検しておきましょう。

危険が近づいて来たら

気象情報を
確認しましょう

強風の時は
窓ガラスに
ガムテープを
貼りましょう

外出は
控えましょう

植木などは室内に
入れましょう

大雨の時は
貴重品を２階に
置きましょう

竜巻注意情報が発令されたら

竜巻注意情報が発令されたときや、竜巻のきざしを発見したら身を守る行動をとりましょう。

竜巻のきざし

低く黒い雲が接近する

雷鳴や雷光が見える

急に冷たい風が吹く

身を守る方法

屋外にいるとき

頑丈な構造物の物陰に入って身を小さくしましょう。

頑丈な建物の中に避難しましょう。

シャッターを閉めましょう。

屋内にいるとき

1階の窓のない部屋に移動しましょう。

丈夫な机の下に入りましょう。

窓やカーテンを閉めましょう。

雨の強さと降り方

1時間雨量(mm)	10～20	20～30	30～50	50～80	80以上
予報用語	やや強い雨	強い雨	激しい雨	非常に激しい雨	猛烈な雨
降り方のイメージ	ザーザーと降る雨	どしゃ降りの雨	バケツをひっくり返したような雨	滝のように降る雨	息苦しくなるような圧迫感がある雨
浸水害・洪水害の発生状況	この程度の雨でも長く続くと注意が必要	道路の脇の水路や小さな川があふれる	下水道管が雨水で一杯になり、水が流れず、あふれる	マンホール蓋から水が噴出する	大規模な災害の発生するおそれが強く、厳重な警戒が必要
土砂災害の発生状況		小規模のがけ崩れが始まる	がけ崩れ、地すべりが起きやすい	土石流が起こりやすい	

避難の注意点

動きやすく安全な格好で

避難するときは、動きやすく安全な服装にしましょう。
ヘルメットや防災ずきんで頭を保護しましょう。
靴はひもでしめられる底の厚い運動靴を。
長靴は浸水が深いと中に水がたまるので動きにくくなります。素足は厳禁です！

歩ける深さに注意！

歩行可能な水深は、ひざの高さくらい（約 50cm）です。
水の流れが速ければ、20cm 程度でも要注意です！
無理をせず、高所で救助を待ちましょう。

足元に注意する！

水面下にはマンホールや側溝などの危険があるので、長い棒を杖代わりに突き、確認しながら進みましょう。

集団での避難を！

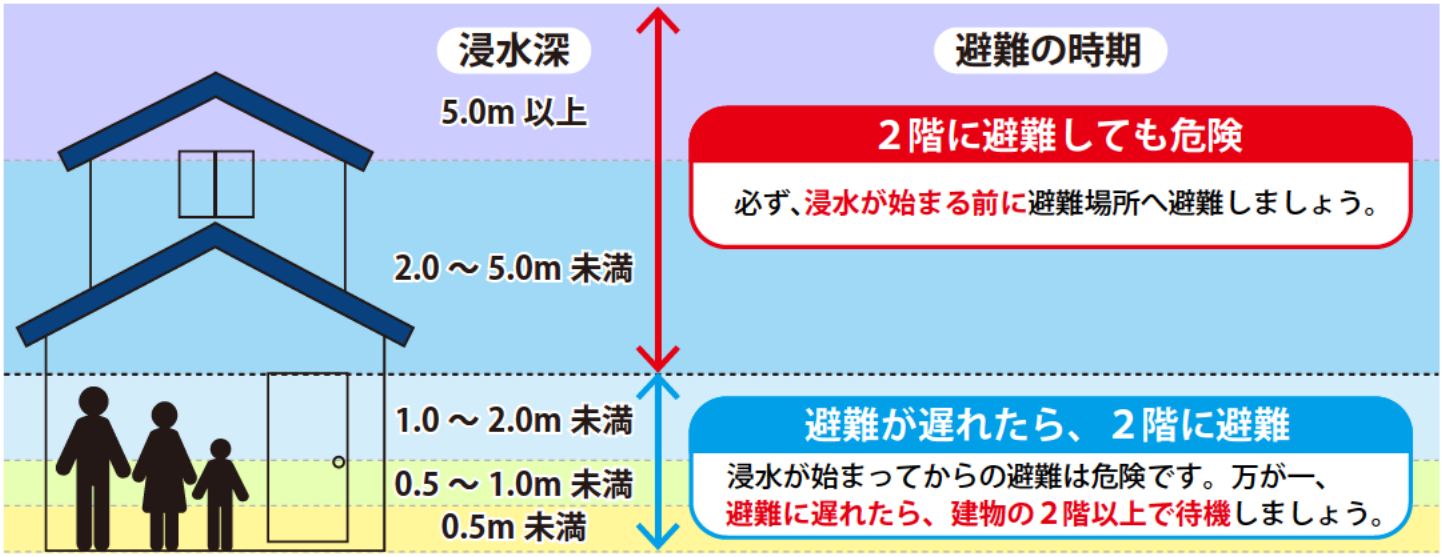
単独行動をせず、集団で避難しましょう。

車での避難は控えて

車での避難は緊急車両の通行の妨げになるほか、交通渋滞を招きます。
また、浸水した場合、水圧でドアが開かなくなる危険もあります。

適切な避難の時期を確認しよう

洪水の正しい避難行動は、「浸水が始まる前に避難する」ですが、万が一の事態に備え、ハザードマップより自宅の浸水深を確認し、下のイラストから避難を判断しましょう。



2階に避難しても危険

必ず、浸水が始まる前に避難場所へ避難しましょう。

避難が遅れたら、２階に避難

浸水が始まってからの避難は危険です。万が一、避難に遅れたら、建物の２階以上で待機しましょう。

自宅待機への備え

自宅待機した場合に備え、「非常持出品を備えよう」を参考に、必要なものをそろえておきましょう。

土砂災害の前ぶれ現象

土砂災害は、大雨や地震などにより、発生することが多いです。下記の前ぶれ現象を察知した場合は、土砂災害が発生する可能性があります。ただちに周りの人と安全な場所へ避難しましょう。

がけ崩れ

小石がパラパラ落ちてくる。

がけから水が湧き出てくる。
腐った土の臭いがする。

斜面のひび割れ、変形がみられる。

土石流

地鳴り、山鳴りがする。

川の流れが濁り、流木が混ざり始める。

雨が降り続いているのに、川の水位が下がる。

地すべり

がけや斜面から水が噴き出す。

地面がひび割れたり、陥没、隆起する。

沢や井戸の水が濁る。

土砂災害の多くは雨が原因で起こります。１時間に 20 ミリ以上、または降り始めから 100 ミリ以上の降雨量になったら十分な注意が必要です。

土砂災害から身を守るために

土砂災害は予測が難しいため、避難勧告の発令が間に合わないこともあります。
少しでも危険を感じたら、迷わず早めの避難を心がけましょう。

ハザードマップで土砂災害危険箇所を確認しましょう

普段から自分の住んでいる地域が危険かどうかを知っておくことが非常に大事です。
また、避難場所や避難場所までの安全な経路を確認することも大事です。
そのために、ハザードマップで土砂災害危険箇所や土砂災害警戒区域、土砂災害特別警戒区域の位置や避難場所、避難場所までの安全な経路など、日頃から土砂災害が発生した場合に備え、対応を調べておきましょう。

土砂災害危険箇所

一定の基準に基づき、北海道が抽出した土砂災害（がけ崩れ・土石流・地すべり）の危険性がある箇所です。

ハザードマップでの表記のしかた

急傾斜地崩壊危険箇所　土石流危険渓流　地すべり危険箇所

土砂災害警戒区域　土砂災害特別警戒区域

土砂災害警戒区域（イエローゾーン）は、「土砂災害が発生した場合、住民の生命又は身体に危害が生じるおそれのある区域」で、土砂災害特別警戒区域（レッドゾーン）は、「土砂災害が発生した場合、建築物に損壊が生じ、住民の生命又は身体に著しい危害が生じるおそれのある区域」をあらわします。

ハザードマップでの表記のしかた

イエローゾーン
土砂災害警戒区域

レッドゾーン
土砂災害特別警戒区域

雨が降り始めたら、情報を確認しましょう

大雨が予想される場合には、「大雨警報」、「記録的短時間大雨情報」などに注意し、今後の雨の降り方に注意しましょう。また、「土砂災害警戒情報」が発表されたら、迷わず避難の準備をしましょう。「避難勧告」が発令された時は、速やかに避難をすることが重要です。

土砂災害警戒情報とは…

雨が降り続いているときや急な大雨が降ったとき、山などに多くの水分が含まれることで、今にも土砂災害が起こりそうなときに出される情報です。土砂災害警戒情報が発表されたときは、「非常に危険な状況」と判断し、すぐに避難を始めるよう心がけましょう。

避難をするときの注意点

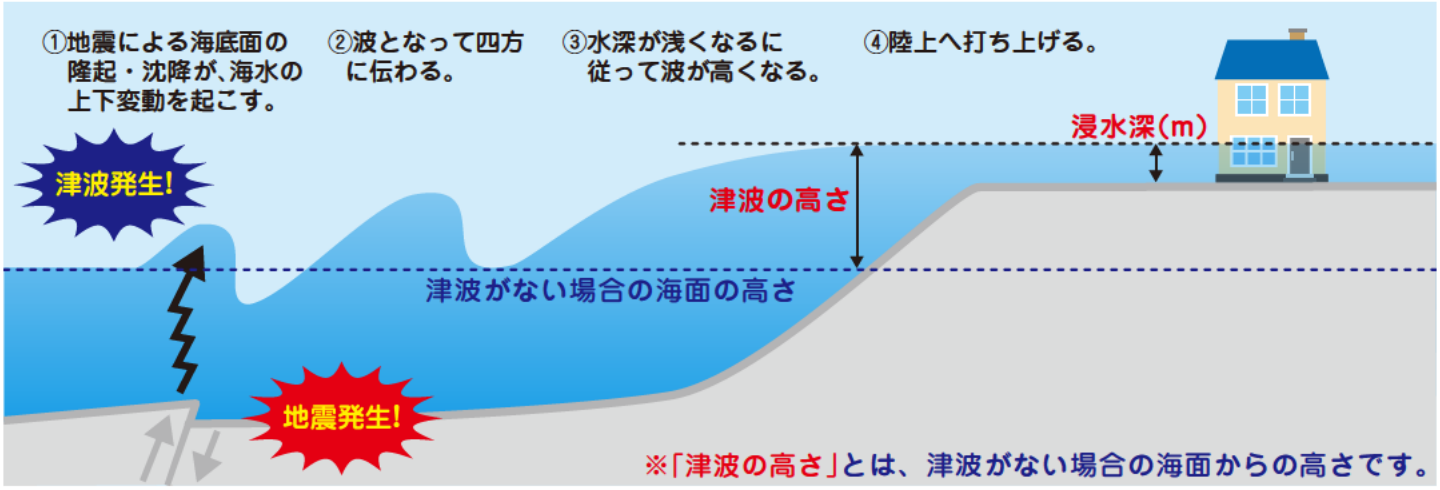
- 避難場所へ移動する**立ち退き避難**が基本です。避難場所や安全な場所へ避難する際、他の土砂災害危険箇所の通過は避けましょう。
- 土石流に関しては渓流に対して**直角方向**にできるだけ渓流から離れましょう。
- 屋外での移動に危険が伴う状況下では、立ち退き避難がかえって危険であるため、このような場合は、**建物の２階などのより高い階にある山の反対側の部屋に待機しましょう。**

津波についての予備知識

津波から身を守る最大のポイントは「すばやい避難」です。警報・注意報が発表されたらテレビ・ラジオなどで正しい情報を入手し、大きな被害が出る前にすばやく避難しましょう。

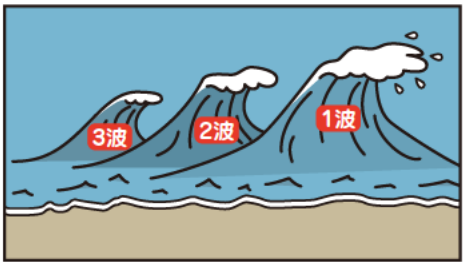
津波のしくみ

海底で発生した地震に伴う海底の隆起・沈降、地すべりなどが原因で、海水が陸地に押し寄せる現象を「津波」といいます。



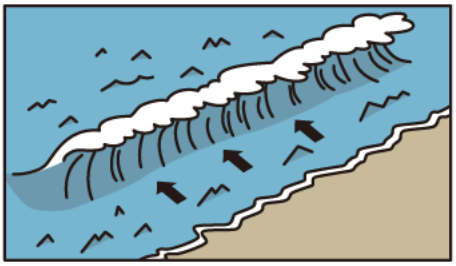
津波の注意点

津波は繰り返し来る！



津波は２波３波と繰り返し襲ってきます。警報が解除されるまでは避難していましょう。

引き潮がなくても注意！



津波の前に必ず引き潮があるとは限りません。地震の起こり方や地形によっては引き潮が起こらない場合もあります。

津波の高さに注意！

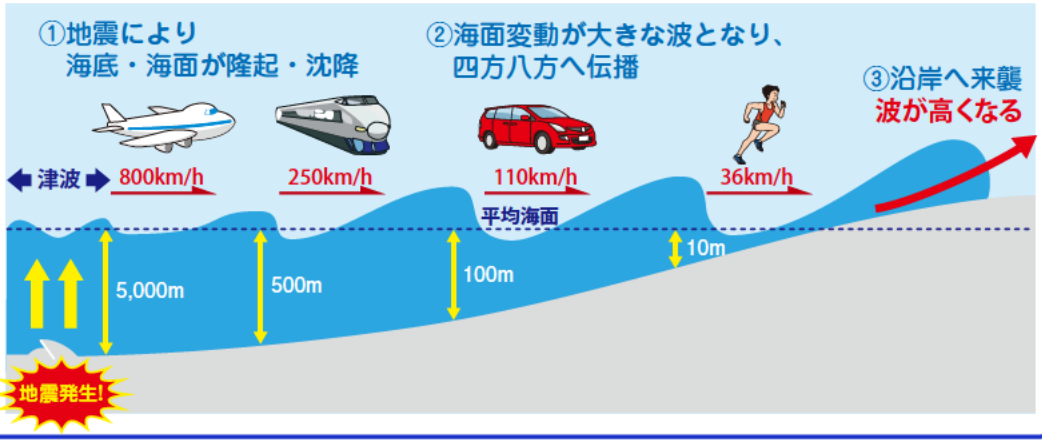
海岸の地形などによって予想された津波の高さを超える津波が発生する場合があります。

津波発生のしくみ

津波は、海が深いほど速く伝わる性質があり沖合ではジェット機に匹敵する速さで伝わります。逆に、海が浅くなるほど速度が遅くなるため、津波が陸地に近づくにつれ、後から来る波が前の津波に追いつき波高が高くなります。

津波から命を守るためには、津波が海岸にやってくるのを見てから避難を始めたのでは間に合いません。

海岸付近で地震の揺れを感じたら、または、津波警報が発表されたら、実際に津波が見えなくても、速やかに避難しましょう。



津波発生時の避難行動について

・津波ハザードマップにより、浸水が予測される区域を把握しておきましょう。
・津波警報・大津波警報発表時は、浸水が予測される区域外に一刻も早く避難しましょう。
・浸水が予測される区域にいて、避難する距離が長い方や避難開始が遅れた方は、指定されている津波避難ビルや緊急避難地（津波）、その他の高い場所に避難しましょう。

■ 緊急避難所（津波）

災害（津波）の危険から住民等が一時回避するための施設です。

■ 津波避難ビル

避難対象地域内に設ける避難施設です。３階以上の共用スペースに一時的に退避できます。
（警報が解除された後、自宅に戻れない方については、津波避難所に移動していただきます。）

■ 緊急避難地（津波）

災害（津波）の危険から住民等が一時回避するための場所（公園、緑地、広場など）です。

津波・避難情報の分類

種類	予想される津波の高さ		市が発表する避難情報
	数値での発表（発表基準）	巨大地震の場合の表現	
大津波警報	10m超（10m＜高さ）	巨大	避難指示（緊急）
	10m（5m＜高さ≦10m）		
	5m（3m＜高さ≦5m）		
津波警報	3m（1m＜高さ≦3m）	高い	避難指示(緊急)･避難勧告
津波注意報	1m（20cm＜高さ≦1m）	―	―

津波警報などに注意！

津波による災害の発生が予想される場合には、地震発生後、約３分で大津波警報、津波警報または津波注意報が発表されます。
その後、予想される津波の高さ、津波の到達予想時刻などの情報が発表されます。
警報の発表後、津波観測に関する情報も発表されます。

津波警報発表　津波から身を守るために…

避難施設や高い場所へ避難する

指定された避難施設が近くにない場合は、高い場所へ避難しましょう。

注意報・警報が出たら

注意報が出たら海岸から早く離れましょう。
警報が出たら急いで避難し、警報が解除されるまで戻らないようにしましょう。

徒歩で避難する

車での避難は、緊急時において渋滞が生じ、避難の妨げになるので、徒歩で避難しましょう。

正しい情報を聞く

ラジオ・テレビ・防災行政無線などで、正しい情報を聞きましょう。

噴火警報と噴火警戒レベル

「噴火警報」と「噴火警戒レベル」を知って、恵山の噴火に備えましょう。

噴火警報

恵山で火山活動が活発になり、**生命に危険を及ぼす火山現象**※の発生やその拡大が予想される場合に発表されます。

※生命に危険を及ぼす火山現象：大きな噴石、火砕流、火山泥流等発生から短時間で火口周辺や居住地域に到達し、避難までの時間的猶予がほとんどない現象

噴火警戒レベル

危険な範囲や防災対応を５段階に区分してレベルの各段階をキーワードにより、必要な防災行動がわかりやすいように発表されます。

恵山の噴火警戒レベル（平成 28 年 3 月 23 日運用開始）

種別	名称	対象範囲	レベル（キーワード）	火山活動の状況（一般的な記載）	住民等の行動及び登山者・入山者等への対応	恵山で想定される現象等
特別警報	噴火警報（居住地域）または噴火警報	居住地域及びそれより火口側	5（避難）	居住地域に重大な被害を及ぼす噴火が発生、あるいは切迫している状態にある。	危険な居住地域からの避難等が必要。（必要に応じて対象地域や避難方法等を判断）	【5-3】 ●火砕流が居住地域まで到達し、重大な被害を及ぼす噴火が発生、あるいは切迫。 過去事例：約8000年前の噴火 約5000年前の噴火 約2500年前の噴火
						【5-2】 ●有感地震の多発や顕著な地殻変動等により、居住地域に重大な被害を及ぼす噴火が発生する可能性が高まっている。 過去事例：なし
						【5-1】 ●小規模な噴火が発生し、大きな噴石が火口から1km程度まで飛散。火山泥流の発生。 過去事例：約3000年前の噴火 1846年の噴火 1874年の噴火
			4（避難準備）	居住地域に重大な被害を及ぼす噴火が発生すると予想される（可能性が高まっている）。	警戒が必要な居住地域での避難準備、要配慮者の避難等が必要。	●有感地震の発生や熱活動の活発化等により、居住地域の一部に重大な被害を及ぼす噴火が発生すると予想される。 過去事例：なし
警報	噴火警報（火口周辺）または火口周辺警報	火口から居住地域近くまで	3（入山規制）	居住地域の近くまで重大な影響を及ぼす（この範囲に入った場合は生命に危険が及ぶ）噴火が発生、あるいは発生すると予想される。	住民は通常の生活（今後の火山活動の推移に注意）。 要配慮者の避難準備等が必要。 入山規制等、危険な地域への立入規制等。	【レベル３の発表について】 レベル３は、火山活動が高まっていく段階では使用せず、レベル４・５から下げる段階で状況に応じて発表する。 ●想定される現象はレベル２と同程度 過去事例：なし
		火口周辺	2（火口周辺規制）	火口周辺に影響を及ぼす（この範囲に入った場合は生命に危険が及ぶ）噴火が発生、あるいは発生すると予想される。	住民は通常の生活（今後の火山活動の推移に注意）。 火口周辺への立入規制等。	●ごく小規模な水蒸気噴火が発生し、大きな噴石がX火口、Y火口（小地獄、大地獄）から500m程度まで飛散。 過去事例：なし ●地震活動や熱活動の高まり等により、X火口、Y火口（小地獄、大地獄）でごく小規模な水蒸気噴火の発生が予想される。 過去事例：なし
予報	噴火予報	火口内等	1（活火山であることに留意）	火山活動は静穏。 火山活動の状態によって、火口内で火山灰の噴出等が見られる（この範囲に入った場合は生命に危険が及ぶ）。	住民は通常の生活。 状況に応じて火口内への立入規制等。	●火山活動は静穏。

恵山で起きる火山現象

火砕流・火砕サージ

雲仙普賢岳の火砕流

火山灰や岩塊、空気や水蒸気が一体となって急速に山体を流下する現象です。火砕流の速度は時速数十 km 以上で、温度は数百℃にも達し、**破壊力が大きく、極めて恐ろしい現象**です。**火砕流発生後の脱出は不可能です。**

火砕サージは、気体を中心とした高温の流れで火山灰などが混じっています。火砕流の周辺にできるほか、水蒸気爆発や岩屑なだれに伴って発生することもあります。

噴石

有珠山噴火で被害を受けた幼稚園

噴火に伴って、火口から吹き飛ばされる噴出物で、時には火口から数 km 程度まで飛散することがあります。**落下の衝撃で死傷したり、家屋・車・道路などが被害**を受けることがあります。

火山泥流

岩石や土砂が水と混合して一体となって急速に山体を流下する現象で、時速数十 km に達し、**谷沿いに遠方まで到達する大変危険**な火山現象です。噴火に伴う融雪、熱水の噴出、火砕流の河川への流入のほか、もろい火山堆積物が豪雨で流されるといった要因で発生します。土砂により、**道路、構造物、農耕地に大きな被害**を与えます。

火山灰

火山灰は粒径が小さいほど風によって火口から遠くまで、時には数百 km から数千 km まで運ばれ、広域に降下、堆積します。**降灰の被害は広域かつ長期にわたることがあります。**人体には**呼吸器系などの障害**のほか、**農作物の被害、交通障害**など広く社会生活に影響を与えます。

火山ガス

火山ガスは**無色透明で、危険に気づくのが遅れがち**です。呼吸器系に障害を受けると呼吸不全になり、最悪の場合は生命にかかわります。

山体崩壊・岩屑なだれ

火山噴火や地震などによって火山体が大規模に崩壊し（山体崩壊）、斜面を高速で流下する現象で、海や湖になだれ込んだ場合は**津波が発生することもあります。**

避難に際し住民のとるべき行動

避難にあたっては、住民等自らが自己の責任において行動すべきことについて理解をし円滑な避難につなげましょう。

- 非常持出品はあらかじめ準備しておき、避難の際の混乱などを避けるため過剰に携行しないこと。
  なお、普段服用している医薬品などについては、十分な量を携行すること。
- 暖房器具は消火を確認し、ガスは元栓を閉め、電気はブレーカーを切るなど出火を防止すること。
  また、水道の元栓等も閉めること。
- 服装は、頭巾またはヘルメット、動きやすい靴、防塵眼鏡、マスクの着用を心がけること。
- 近隣に声をかけ、互いに協力して全員が安全に避難できるようにすること。
- 親戚、知人等のもとに避難するときは、避難所へ避難する方などに避難先や連絡先を伝えておくこと。
- 行動は冷静に行い、不確実な情報に惑わされないよう注意すること。

災害から身を守るために、気象情報や防災情報を正しく迅速に入手しましょう。

テレビのｄボタン

地上デジタル放送のデータ放送から防災情報を確認できます。

緊急速報メール

災害・避難情報を、携帯電話やスマートフォンに無料で受信できるサービスです。
自分の携帯電話やスマートフォンが受信できる設定になっているか確認しましょう。

ラジオ

	放送局	周波数（kHz）
AM局	ＮＨＫ第１	675
	ＮＨＫ第２	1467
	ＨＢＣラジオ	900
	ＳＴＶラジオ	639
FM局	ＮＨＫ ＦＭ	87.0
	ＡＩＲ－Ｇ’	88.8
	ＮＯＲＴＨ ＷＡＶＥ	79.4
コミュニティＦＭ ＦＭいるか（はこだてエフエム）		80.7

函館市が発信している防災・災害情報

防災行政無線

市内各所の屋外拡声子局から、津波警報や大津波警報等の防災無線が放送されます。

防災行政無線放送確認ダイヤル

☎ 0120-36-7676（通話料無料）

防災無線で放送した内容を電話で確認できます。
（東部４支所管内は除く）
放送が聞き取れなかったり、もう一度内容を確認したい場合にご利用ください。

函館市 ANSIN メール

災害などの緊急性の高い安心安全情報やその他の市政情報を電子メールで配信します。

https://www.city.hakodate.hokkaido.jp/docs/2014032000172/

函館市ホームページの災害情報

函館市公式ホームページでは、災害発生時の避難情報、避難所や救急医療機関の情報などを発信しているほか、防災関係機関へのリンクにより、気象台から発表される警報や注意報、道路、河川、交通機関やライフラインの情報なども提供しています。

函館市公式ホームページ　http://www.city.hakodate.hokkaido.jp/

函館市公式の Twitter（ツイッター）をフォロー（事前登録）しておけば、Twitter から発信される前述の情報を携帯電話・スマートフォン・パソコンで受信することが可能です。

函館市広報広聴課　Twitter　@Hakodate_PR

各種防災情報

大雨や洪水に関する情報

気象庁　レーダー・ナウキャスト（降水・雷・竜巻）

レーダー観測などを基に、降水・雷・竜巻の予報を提供する。

http://www.jma.go.jp/jp/radnowc/

気象庁　降水短時間予報

局地的に短時間で降る雨の予報を、３０分間隔で６時間先までを提供する。

http://www.jma.go.jp/jp/radame/

気象庁　指定河川洪水予報

河川の増水やはん濫などに対する水防活動の判断や住民の避難行動の参考となるよう、指定河川の水位または流量を示した洪水の予報を提供する。

http://www.jma.go.jp/jp/flood/

北海道　北海道土砂災害警戒情報

土砂災害による被害の防止・被害の軽減のための情報を発表する。

http://www.njwa.jp/hokkaido-sabou/

国土交通省　川の防災情報（北海道地方）

リアルタイム雨量・水位の情報を提供する。
水防警報、洪水予報やダム放流の通知もされる。

http://www.river.go.jp/81.html

道路情報

国土交通省　北海道地区道路情報

道路通行止め実施箇所を掲載。
峠の現状をカメラ映像で見ることができる。

http://info-road.hdb.hkd.mlit.go.jp/

道路交通情報 NOW!!

現況の道路交通情報を５分おきに提供する。

http://www.jartic.or.jp/

北海道の道路情報総合案内サイト北の道ナビ

交通道路情報・気象情報・防災情報などが総合的に掲載されている。

http://northern-road.jp/navi/

北海道防災情報

北海道において発令されている防災情報を提供する。

・パソコン・スマートフォン

http://www.bousai-hokkaido.jp/

・携帯電話

http://i.bousai-hokkaido.jp/

災害時の伝言サービス

171 災害用伝言ダイヤル

伝言を残す（録音）　伝言を聞く（再生）

1 7 1 にダイヤルする（ガイダンスが流れます）

録音の場合 **1** を押す
→ 固定電話（市外局番から）や携帯電話・PHS 等の電話番号をダイヤルする
→ **1** 伝言を録音
→ **9** 終了

再生の場合 **2** を押す
→ 伝言を聞きたい方の電話番号をダイヤルする
→ **1** 伝言を再生
→ **8** もう１度聞く　**9** 別の伝言を聞く

災害用伝言板（携帯電話・スマートフォン）

携帯電話などを利用して伝言を登録・確認ができます。地震や風水害などで被災地との連絡が困難になった場合に各社の公式サイトのトップ画面に災害用伝言板の案内が表示されます。

伝言を残す（登録）　伝言を読む（確認）

公式サイトのトップ画面「災害用伝言板」を選択

登録を選択
（登録は被災地域内の携帯電話・PHS からのアクセスのみが可能です。）
→ 現在の状態を「無事です」などの選択肢から選び、任意で 100 文字以内の伝言を入力する。
→ **登録**を選択

伝言の確認はパソコンからも行うことができます。確認は全国からアクセス可能です。

NTT ドコモ
http://dengon.docomo.ne.jp/top.cgi
KDDI（au）
http://dengon.ezweb.ne.jp/
ソフトバンク
http://dengon.softbank.ne.jp/
ワイモバイル
http://dengon.ymobile.jp/info/

→ **確認**を選択
→ 安否確認したい方の携帯電話の番号を入力して検索する。

非常持出品を揃える心がけ

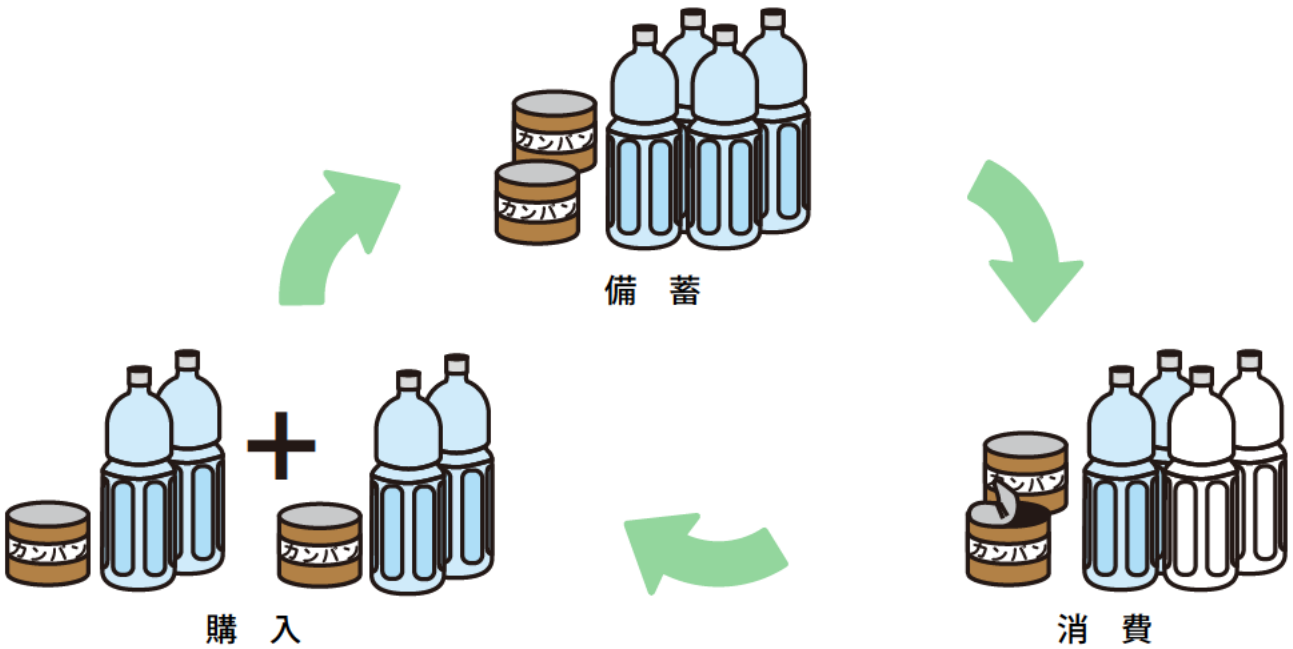
各家庭で非常持出品を準備し、取り出しやすい場所に置いておきましょう。
食料や水は一人あたり３日分用意しましょう。

まずは**非常持出品**から準備し、次いで普段のカバンに**携帯**できるもの、**自宅に備蓄**するものを揃えましょう。

・水や食料の賞味期限、薬品や電池の使用期限をチェックしましょう。
・家族構成を考えて揃えましょう。
　赤ちゃんのいる家庭：ミルク・ほ乳瓶・おむつ・離乳食（スプーン）など
　高齢者のいる家庭：入れ歯・服用薬など

新しい備蓄の方法（ローリングストック法）

保存用の食品を備蓄しておくことは大切なことですが、いつの間にか賞味期限が切れていて破棄したり、賞味期限が迫ってあわてて保存食を食べなければいけないということに陥ったりします。
そこで、**日常の中に食料備蓄を取り込む**ローリングストック法という考え方があります。
ローリングストック法は、日常的に食材・加工品を少し多めに購入し、賞味期限が近いものから消費します。そして、消費した分だけを買い足すことで、**常に一定量の備蓄をしておく**という方法です。
この方法のメリットは、備蓄量を一定に保ちながら消費と購入を繰り返すので、備蓄品の鮮度が保たれ、いざという時でも日常生活に近い食生活を送ることができるところです。



チェックリスト

分類	品　目	持出	備蓄	携帯	メ　モ	備考
バッグ	非常持出袋	●			軽くて丈夫なものを。	□
水	飲料水	●		●	携帯：500ml、持出：1日3ℓ目安。	□
食	携帯食	●		●	キャンディ、栄養補給・調整食品など。	□
	非常食	●	●		乾パンなど、水・調理なしでそのまま食べられるもの。	□
装備・道具	ヘルメット・防災ずきん・帽子など	●			頭を保護して逃げるため。持出袋と一緒に置いておく。	□
	ホイッスル			●	閉じ込められた際の生存率が上がる。叫ぶより大音量。	□
	作業用手袋（軍手）	●			丈夫な素材のものを。防寒用にもなる。	□
	運動靴・スリッパ	●			避難するときには、ひもでしめられる運動靴を。 避難場所ではスリッパがあると便利。	□
	ヘッドライト・懐中電灯（予備電池）	●	●	●	できれば小型のLEDライトを。1人に1つ。	□
	万能ナイフ類	●		●	ハサミ、ナイフ、缶切りなどの複合ツールが便利。	□
情報	携帯ラジオ（予備電池）	●		●	手回し充電に対応したラジオが便利。	□
	携帯電話（充電器・バッテリ）			●	電池で使える簡易充電器なども用意。	□
	連絡メモ・備えリスト	●		●	頼れる親類縁者友人知人の住所・連絡先等。	□
	身分証明書（そのコピー）	●		●	健康保険証、運転免許証、パスポート、外国人登録証など。	□
	母子手帳	●				□
	筆記用具（メモ帳とペン）	●		●	安否メッセージを書く、連絡先メモなど用途は様々。	□
	現金（１０円硬貨含む）	●	●	●	公衆電話、自販機用に10円玉、100円玉を用意。	□
救急・衛生	救急用品セット	●		●	消毒薬、脱脂綿、ガーゼ、絆創膏、包帯、 三角巾、爪切り、毛抜き、体温計など。	□
	持病薬・常備薬	●	●	●	おくすり手帳、または処方箋のコピーでも可。	□
	衛生用品	●	●	●	マスク、ティッシュ、トイレットペーパー、 ウェットティッシュ、生理用品（おりものシート）	□
	携帯トイレ	●	●	●	非常時において、トイレに行けないことはかなり深刻。	□
	着替え一式	●				□
	耳栓		●		避難場所などに入り、集団生活を送る場合には必須。	□
防寒	使い捨てカイロ	●		●		□
	アルミマット・寝袋	●				□
汎用	タオル	●	●		汚れの拭き取り、ケガの手当、下着の代用等、汎用度高。	□
	ポリ袋・ラップ	●	●	●	小サイズは食器に被せて、中サイズは長靴に、 大サイズは被って雨具に、と汎用度高。	□
	レジャーシート・ブルーシート	●	●		敷物としてはもちろん、ロープで張って雨よけ、日よけにも。	□
	ライター（マッチでも）	●			暖房器具の点火などに。マッチよりも使い勝手がよい。	□
	布ガムテープ	●			仮止め、各種応急処置、屋外に伝言メモを貼る等、汎用度高。	□
	ハザードマップ	●	●			□

お年寄りなどに対する避難支援

ひとり暮らしのお年寄りや障がいのある方は、災害時にすばやく避難することが困難です。
日頃から、地域で支援が必要な人を把握して災害時には行動をともにしてください。

高齢者・寝たきりの方

緊急の時は、おぶって安全な場所まで避難する。
複数の支援者で対応する。
不安を取り除くように声をかける。

肢体が不自由な方

階段では２人以上が必要。上りは前向き、下りは後ろ向きにして移動する。
支援者が１人の場合は、おぶりひも等を用意し、おぶって避難する。

耳が不自由な方

話すときは、口の開け方をハッキリとし、相手にわかりやすいようにする。
手話、筆談、身振りなどの方法で正確な情報を伝える。

目が不自由な方

災害時には、声をかけ情報を伝える。
誘導する場合は、杖を持った方の手には触れず、ひじのあたりを
軽く持ってもらい、半歩前をゆっくりと歩く。

知的障がいのある方

あわてないように優しい声で指示を出すか、手を取って安全な行動を促す。

内部障がいのある方

かかりつけの医療機関をはじめ、病院や救護所などの
情報収集の手助けをする。

●支援が必要な方も、日頃から、災害時の避難についてイメージしておきましょう。